

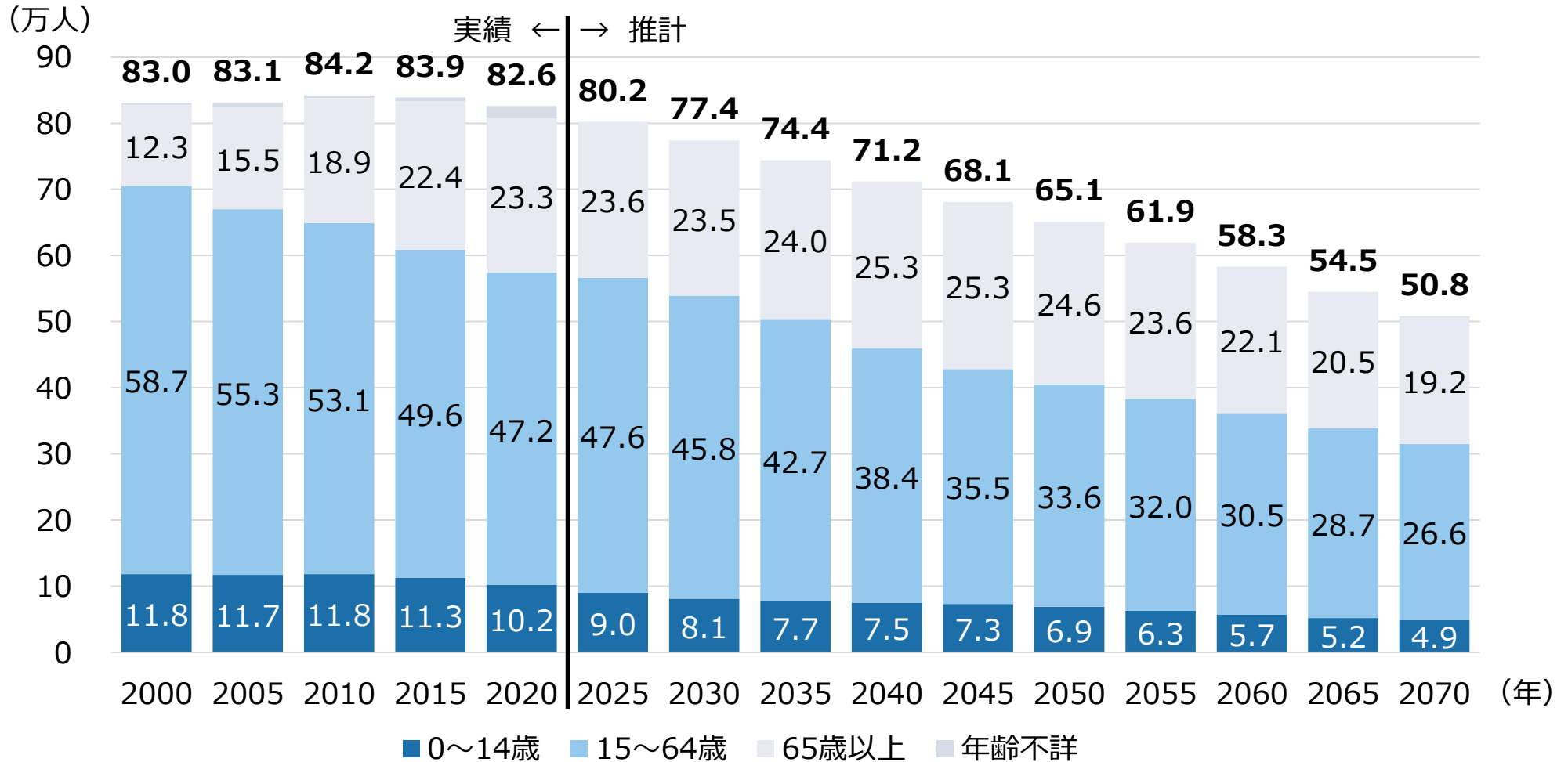
資料4

児童生徒数・通常学級数・学校規模の現状

年齢3区分別人口の将来推計

○年少人口（0～14歳）は減少傾向で推移する見込み。

○2025年4月末時点住民基本台帳の年少人口（0～14歳）は93,339人であり、2015年から約2万人減少。



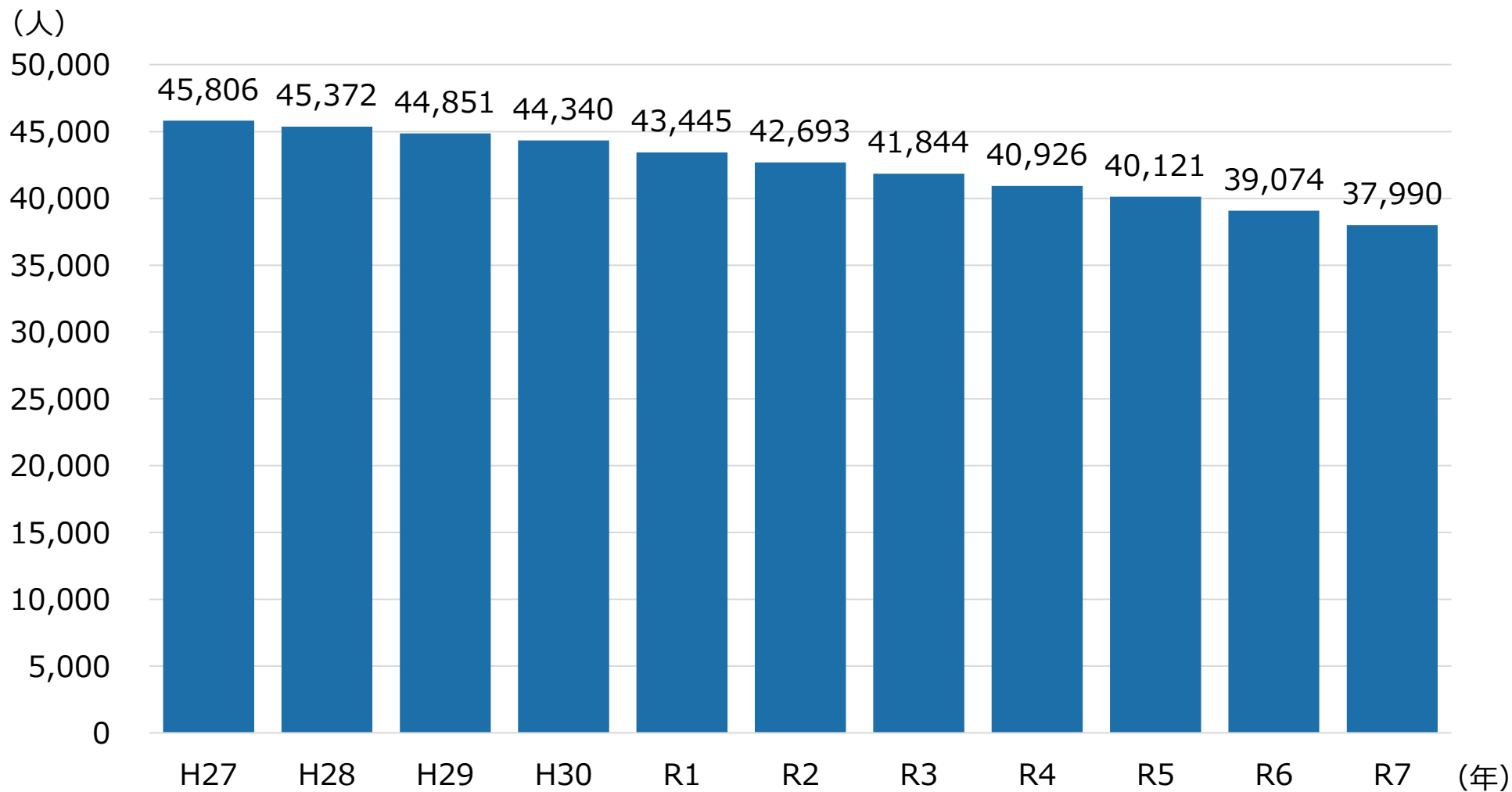
学校数・児童生徒数・通常学級数の現状

区	小学校			中学校		
	学校数	児童数	通常学級数	学校数	生徒数	通常学級数
堺 区	16	6,043	215	7	2,940	85
中 区	13	5,893	201	6	3,193	90
東 区	9	4,295	143	4	1,975	55
西 区	14	6,697	223	6	3,466	96
南 区	19	5,697	204	9	3,103	92
北 区	15	7,551	244	8	3,740	105
美原区	6	1,814	66	3	933	27
合 計	92	37,990	1,296	43	19,350	550

※学校基本調査による令和7年 5 月 1 日現在（夜間中学校除く）

小学校における児童数の推移

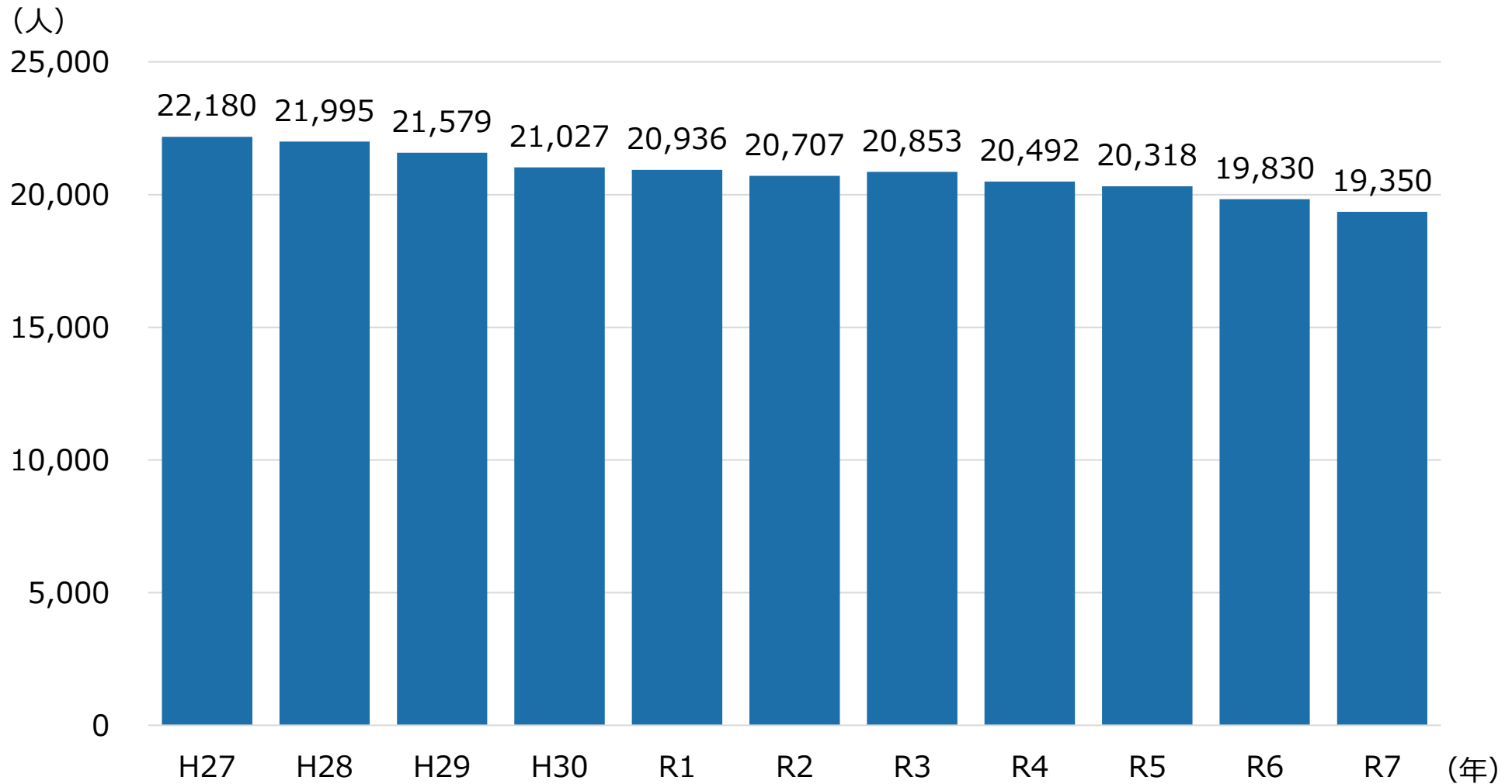
○平成27年度（45,806人）から10年間で約7,800人（約17%）減少



※学校基本調査による毎年5月1日現在

中学校における生徒数の推移

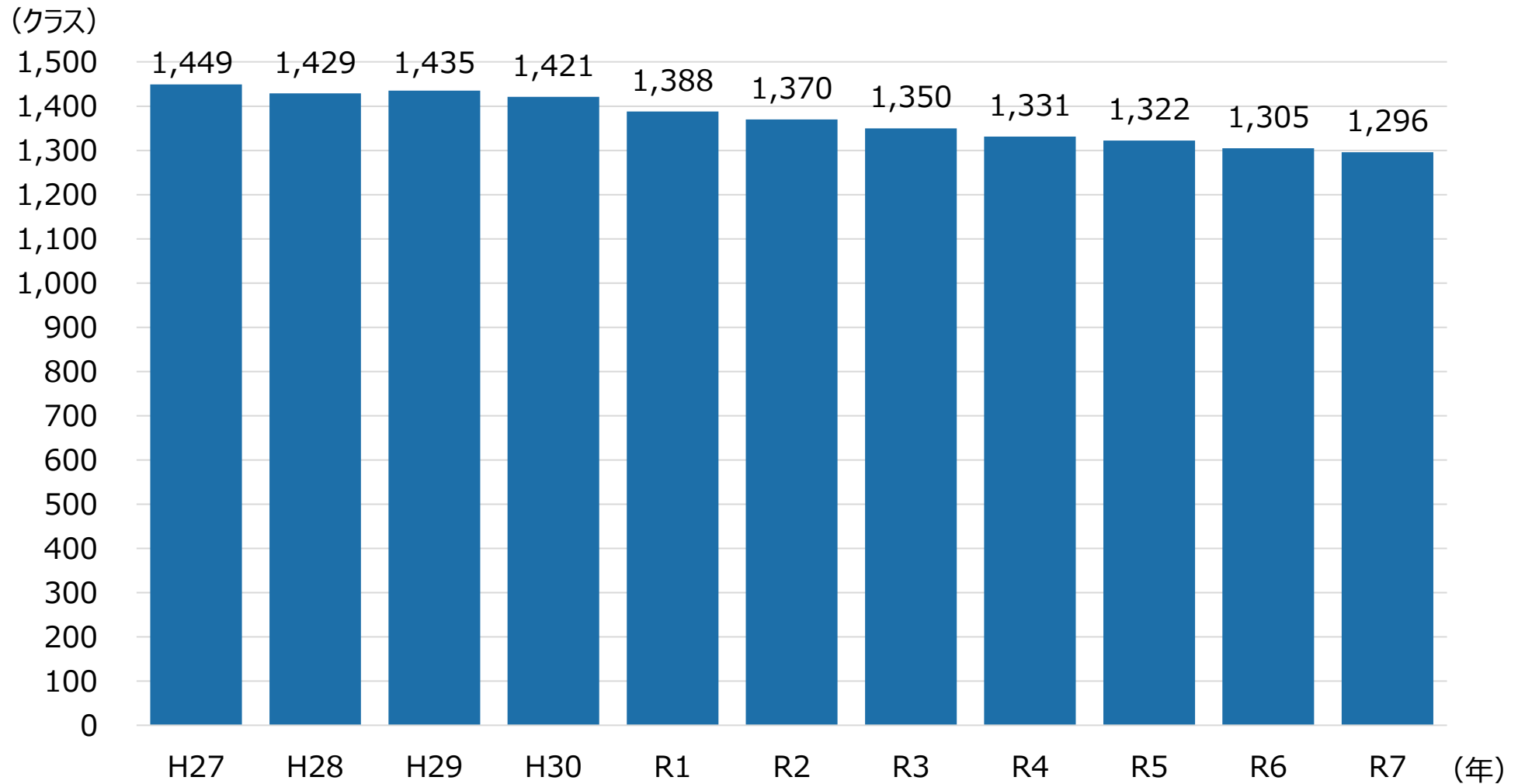
○平成27年度（22,180人）から10年間で約2,800人（約12.7%）減少



※学校基本調査による毎年5月1日現在（夜間中学校除く）

小学校の通常学級数の推移

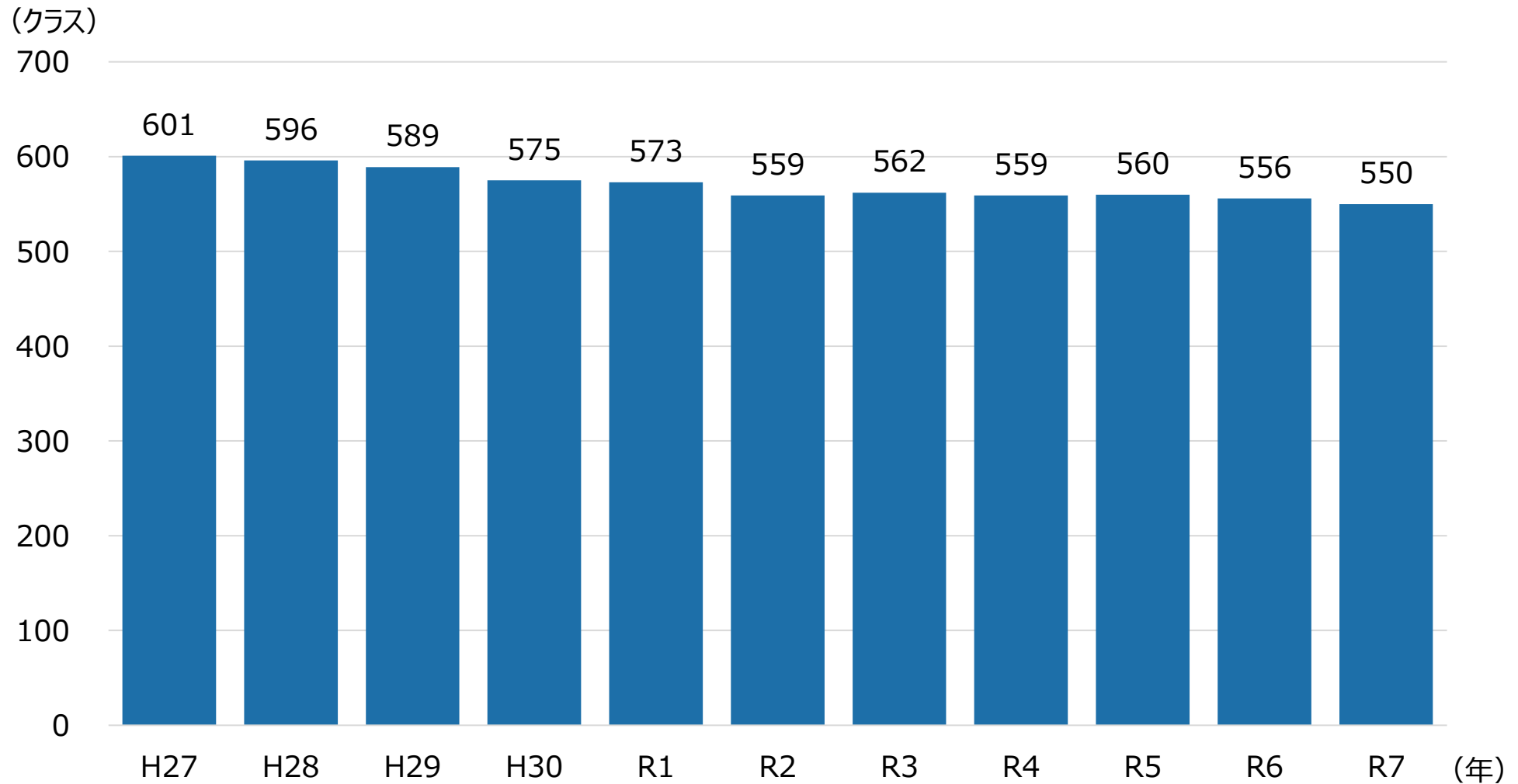
○平成27年度（1,449クラス）から10年間で約150クラス（約10%）減少



※学校基本調査による毎年5月1日現在

中学校の通常学級数の推移

○平成27年度（601クラス）から10年間で約50クラス（約8.7%）減少



※学校基本調査による毎年5月1日現在（夜間中学校除く）

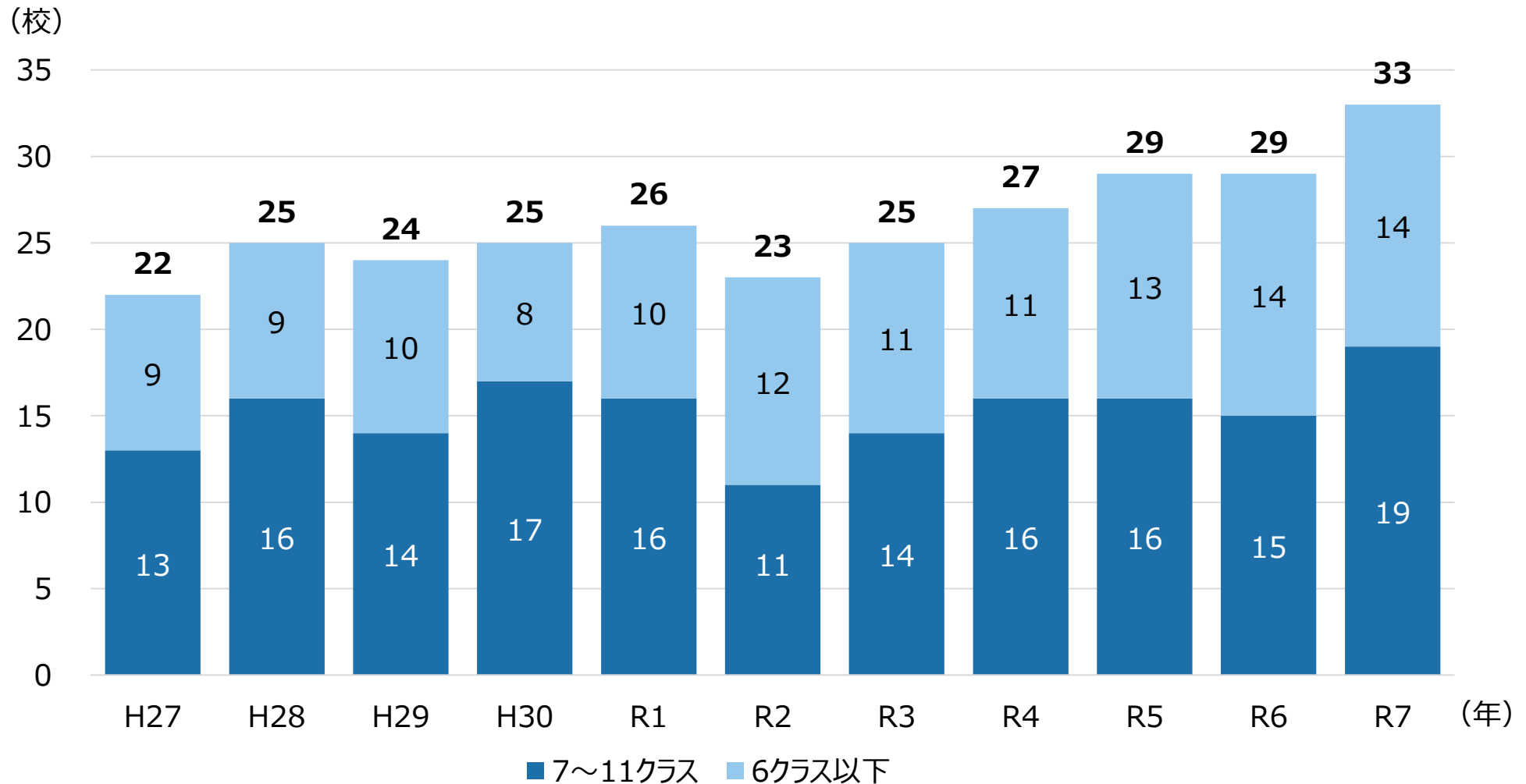
学校規模の現状（通常学級数別）

区	小学校					中学校				
	学校数	（校数内訳）通常学級数別				学校数	（校数内訳）通常学級数別			
		小規模校		12～18 クラス	19クラ ス以上		小規模校		12～18 クラス	19クラ ス以上
		6クラス 以下	7～11 クラス				6クラス 以下	7～11 クラス		
堺 区	16	3	4	6	3	7	1	2	3	1
中 区	13	1	2	7	3	6	0	3	1	2
東 区	9	0	2	4	3	4	0	0	3	1
西 区	14	1	3	7	3	6	0	2	2	2
南 区	19	4	5	9	1	9	1	5	3	0
北 区	15	4	1	4	6	8	1	3	3	1
美原区	6	1	2	3	0	3	1	1	1	0
合 計	92	14 (15.2%)	19 (20.7%)	40 (43.5%)	19 (20.6%)	43	4 (9.3%)	16 (37.2%)	16 (37.2%)	7 (16.3%)

※学校基本調査による令和7年 5 月 1 日現在（夜間中学校除く）

6クラス以下・7～11クラスの小学校数の推移

○平成27年度（22校）から10年間で11校増加（6クラス以下は5校増加・7～11クラスは6校増加）

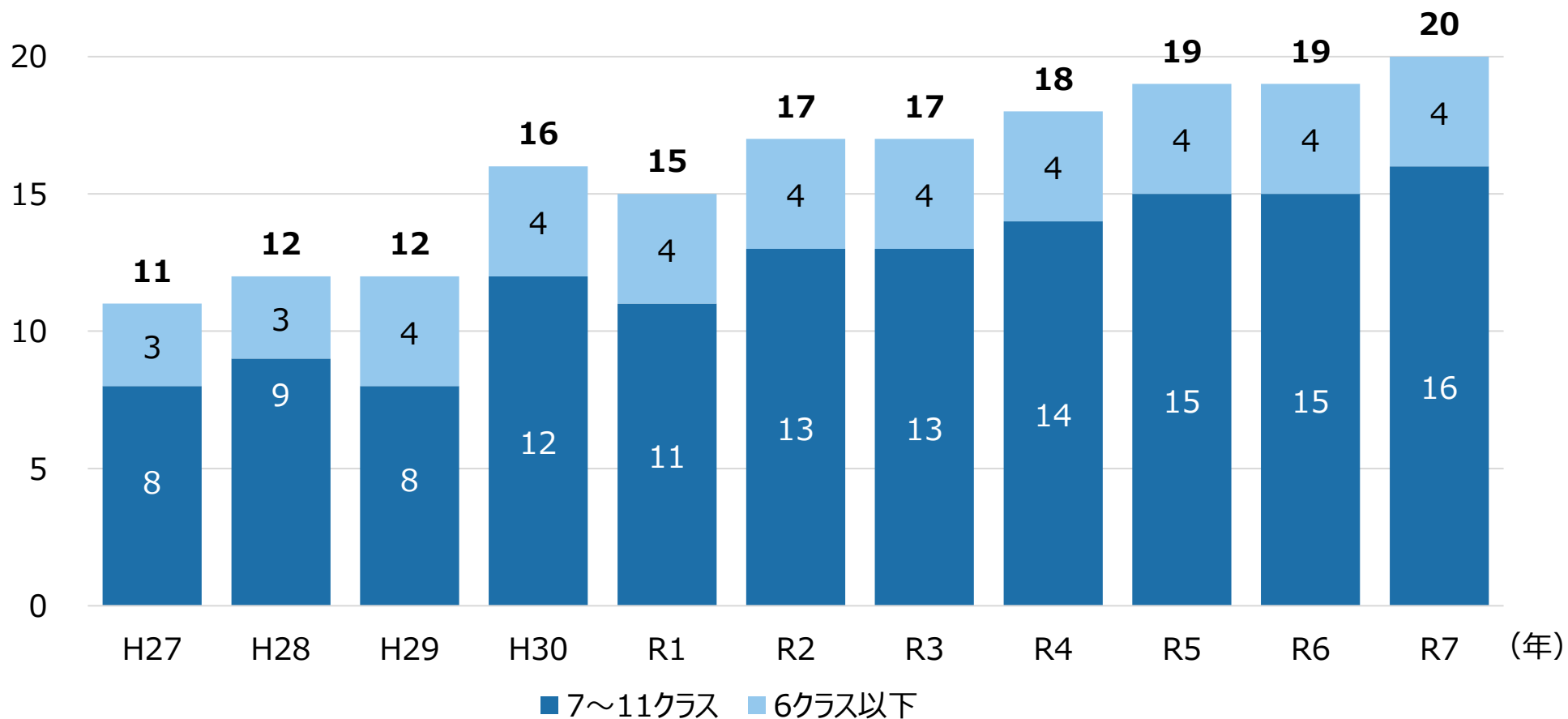


※学校基本調査による毎年5月1日現在

6クラス以下・7～11クラスの中学校数推移

○平成27年度（11校）から10年間で9校増加（6クラス以下は1校増加・7～11クラスは8校増加）

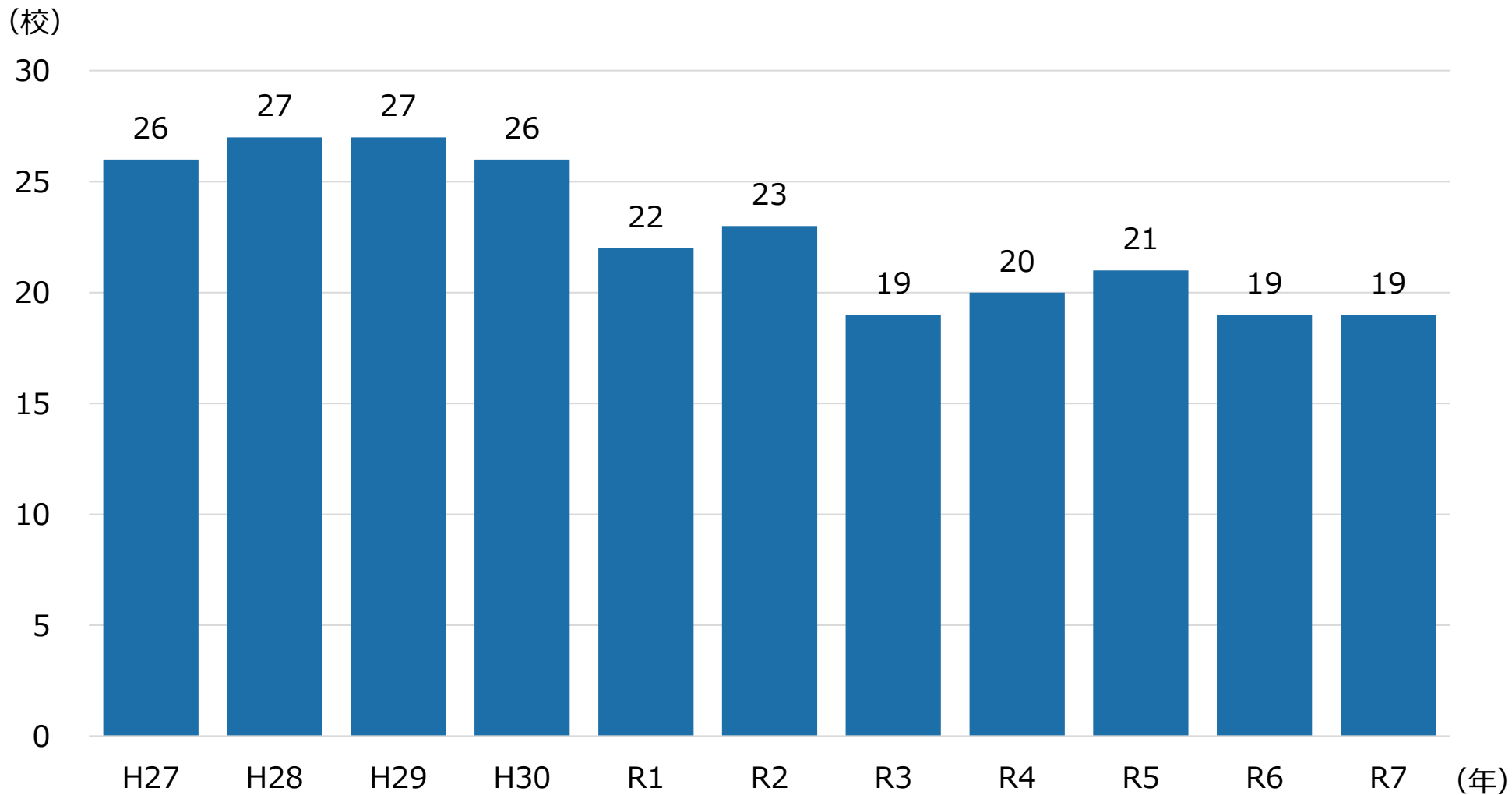
(校)



※学校基本調査による毎年5月1日現在（夜間中学校除く）

19クラス以上の小学校数の推移

○平成27年度（26校）から10年間で7校減少

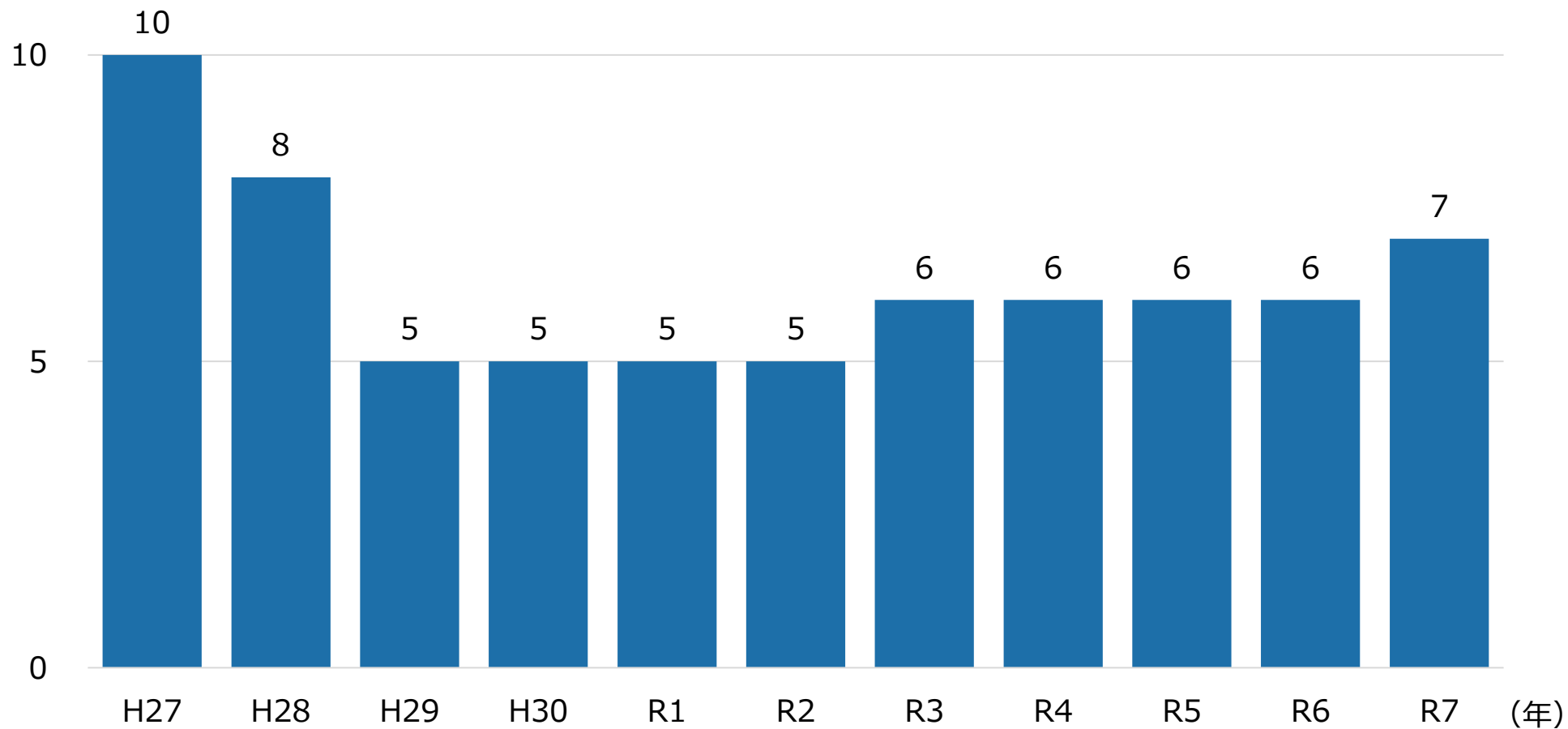


※学校基本調査による毎年5月1日現在

19クラス以上の中学校数の推移

○平成27年度（10校）から10年間で3校減少

(校)



※学校基本調査による毎年5月1日現在（夜間中学校除く）

学校配置の現状（1つの中学校区に含まれる小学校数別）

区	中学校				
	学校数	（校数内訳）1つの中学校区に含まれる小学校数別			
		1小学校	2小学校	3小学校	4小学校
堺 区	7	0	5	2	0
中 区	6	0	4	2	0
東 区	4	0	3	1	0
西 区	6	0	4	2	0
南 区	9	1	6	2	0
北 区	8	2	4	2	0
美原区	3	1	0	0	2
合 計	43	4 (9.3%)	26 (60.5%)	11 (25.6%)	2 (4.6%)

※夜間中学校除く

※小学校区内の住所地によっては、中学校が別になる場合あり

少人数を生かした指導の充実（小規模校のメリット）

※公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～（P.34）から引用

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、I C T 機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

学級数が少なくなるにより生じ得るデメリット

※公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～（P.6）から引用

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

各学年で複数の学級を編成できる場合の利点

※公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～（P.7）から引用

- ① 児童生徒同士の間関係や児童生徒と教員との間関係に配慮した学級編制ができる
- ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる
- ③ 新たな間関係を構築する力を身に付けさせることができる
- ④ クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる
- ⑤ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる
- ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることができる
- ⑦ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる

大規模校に生じる可能性がある課題

※公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～（P.14）から引用

- ① 学校行事等において、係や役割分担のない子供が現れる可能性があるなど、一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある
- ② 集団生活においても同学年の結び付きが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある
- ③ 同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合がある
- ④ 教員集団として、児童生徒一人一人の個性や行動を把握し、きめ細かな指導を行うことが困難であり、問題行動が発生しやすい場合がある
- ⑤ 児童生徒一人当たりの校舎面積、運動場面積等が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる場合がある
- ⑥ 特別教室や体育館、プール等の利用に当たって授業の割当てや調整が難しくなる場合がある
- ⑦ 学校運営全般にわたり、校長が一体的なマネジメントを行ったり、教職員が十分な共通理解を図ったりする上で支障が生じる場合がある